

精神科医療を 考えるシンポ

9日 虎ノ門で

約30万人が入院する精神科病院や精神科医療のあり方について考えるシンポジウム「日本のMattotoの町をどうする!」が9日、港区虎ノ門2丁目のニッシーホール(日本消防会館)で開かれる。「日本のMattotoの町を考える会」(大熊一夫代表)主催、参加費2500円。

午前10時から、半世紀近く精神科医療を追いかけてきた「考える会」代表の大熊さんが製作したドキュメンタリー映画「精神病院のない社会」を上映。映画は、様々な人のインタビューを通じ、1999年に県立の精神科病院をすべて閉鎖し、2017年には国立の司法精神科病院も閉じたイタリアと、いまも多数が入院する日本との相違点を浮き彫りにする。

午後1時からはシンポジウム「強制入院の不条理」を開催、大熊さんのほか精神科病院の身体拘束問題に詳しい杏林大学教授の長谷川利夫さん、精神疾患を抱える人の社会生活を支援してきた公益社団法人「やどかりの里」常務理事の増田一世さん、長期入院経験者などが登壇する。また、強制入院させられた当事者の発言もあるという。

問い合わせは「考える会」(mattotokyo@gmail.com、ファクス042・329・7372)へ。